

報 告

CHINA AID（第六回中国障害者・高齢者国際福祉機器展示会）報告

佐賀大学 医学部地域医療科学教育研究センター 松尾 清美

1. はじめに

第六回中国国際福祉機器展示会（以下、CHINA AID）は、2011年5月16日から18日まで上海国際展覧中心で開催されました（図1）。この福祉機器展の同期イベントで「障害者補助器具発展、バリアフリー生活と障害者事業セミナー」があり、その講師を依頼され、CHINA AIDに参加する機会を得ましたので、上海へ移動途中のバリアフリーを含め報告します。

2. 上海までの交通機関

筆者は、開発中の電動補助装置を日常使用している車いすに装着して移動しました。福岡空港から上海浦東国際空港への飛行機に乗るとき、この電動補助装置のバッテリーの厳しい検査を受けました。その後、飛行中の気流の乱れなどで機械が損傷しない様にしっかりと梱包しました（図2）。福岡空港ではJALの地上スタッフが梱包を手伝ってくれて大変助かりました。帰路の上海浦東国際空港ではバッテリーの搭載許可を得るために90分以上かかりました。浦東国際空港に到着すると、空港から龍陽路駅の間約30キロを7分間で走るリニアモーターカーがあるのを知り、その乗り心地を経験しました（図3）。乗車口には段差が15cm程度ありましたが、スロープの準備はありませんでした。車内の通路幅は58cm程度でどうにか補助電動装置を付けたまま移動することができました。しかし、乗車したのが発車時間で、自分の席に着く前に終点になり、通路で415km/hの表示をみた時、揺れが少ないことに驚きました。

3. 第六回 CHINA AID の状況

主催は上海市民生局と上海市高齢者工作委員会弁公室、上海市障害者連合会、中国国际貿易促進委員会上海市分会で、運営は上海市社会福祉センター、

国立大学法人 佐賀大学 医学部
〒849-8501 佐賀市鍋島 5-1-1



図1 CHINA AID の開会式



図2 開会式で記念撮影と空港での電動装置の箱詰状況

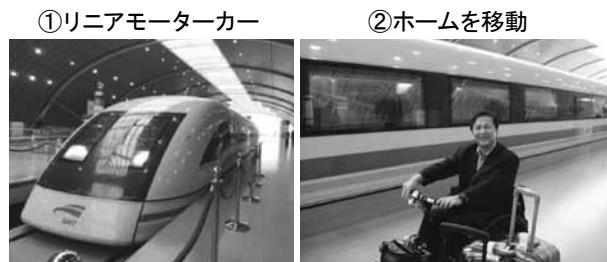


図3 リニアモーターカーでの移動



図4 CHINA AID の会場の障害者用 3 輪車の駐車場

上海市障害者機器センター、上海国際展覧中心有限会社でした。上海の重度障害者は電動車いすで、軽度の方は道路を自動車の様に走る電動3輪車に乗って移動している人が多く、会場横の駐車場にたくさんの3輪車が駐車していました(図4)。日本からの出展も多く、日本エリアも作られていました(図5)。展示機器の状況は、食具から杖、車いす、介護リフト、YDSのミニカー(図6)や自動車まで展示されていました。杖や車いすを使って移動する方は多かったのですが、日本で見られる様な呼吸器を電動車いすに積んで移動する様な重度障害者の参加はなく、比較的軽度の障害者が多いと感じました。

4. バリアフリー生活と障害者事業セミナー

障害者補助器具発展、バリアフリー生活と障害者事業セミナーでの講演では、「福祉用具と住宅改修によってバリアフリー生活を実現」というテーマで、「例え歩けなくても人生を楽しめる。環境を改善していこう!」などについて1時間お話をしました。通訳を筆者の大学の留学生にお願いし、講演後には会場の参加者からたくさんの質問を頂きました(図7)。

5. ホテルの状況

ホテルは、展示会場から歩いて10分程で移動できるGalaxy Hotel Shanghaiをとりました。ホテルの部屋は一般と同じですが、トイレとシャワールームが一つの部屋になった障害者用を予約しました。バスタブがなく、シャワーへッド下にある折り畳み椅子に移乗してシャワーを使いました(図8)。

6. おわりに

上海で開催された第六回CHINA AIDに参加し、中国文化と障害者の社会参加状況などを視察しました。また、依頼講演や展示会視察の後には、上海市の居住区にある福祉機器展示場(図9)や郊外のケア付きマンション、リハビリテーション病院などを見学し、また暨城市にある大学のバリアフリー総合研究センターの設立式と講演会にも参加させて頂き、中国の地域福祉の現状と将来について講演を聞きました。今回の経験で、中国の福祉機器の発展への期待と共に、障害者の社会参加が促進される様に、中国の福祉関係者や障害者と協力していく必要性を感じました。



図5 CHINA AID の日本企業ブース例と参加者一同



図6 CHINA AID の展示機器の例と機器を背景にした交流



図7 バリアフリー生活と障害者事業セミナーの状況



図8 Galaxy Hotel Shanghai の部屋の状況



図9 上海市の福祉機器展示場



図10 美しい夜景の東方明珠